スズトクグループ環境社会報告書 2012
Sustainability Report

SUZUTOKU

「昨日のゴミ」を「明日の資源」に

環境社会活動データを見る

SIDE A

スズトクグループ企業理念
Top Commitment
グループの事業
2011年度 資源リサイクルの全体像
環境マネジメントシステムについて
労働安全衛生の確保・推進
コンプライアンスの徹底
グループ概要・会社紹介
許認可の概要・第三者意見

スズトクグループ企業理念

事業活動を行なううえで果たすべき「4つの責任」。
グループではこれを常に忘れることなく、高度循環型社会の形成に貢献していきます。

1 お客様に対する責任

すべてのお客様・お取引先様との共存共栄を第一とします。そして、可能な限り質の高いサービス・品質で皆さまのニーズにお応えします。

2 社員に対する責任

社員を個人として尊重し、その能力・技術が最大限発揮できるよう、公正で風通しがよい組織、また安全で働きやすい職場環境をつくります。

3 社会に対する責任

常に社会の一員であることを自覚し、法令並びに社会ルールを順守して地域との共生を図ります。また環境配慮に努め、資源リサイクル事業を進めます。

4 株主に対する責任

バランスのとれた健全かつ安定した経営を続け、適正な利潤の確保と事業の発展に努め、株主に対して適正な配当を行います。

企業行動憲章（一社）日本経済団体連合会 ―――― 社会の信頼と共感を得るために

企業は、公正な競争を通じて付加価値を創出し、雇用を生み出すなど経済社会の発展を担うとともに、広く社会にとって有用な存在でなければならない。そのため企業は、次の10原則に基づき、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

1.社会的に有用で安全な商品・サービスを開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。

2.公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。

3.株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。また、個人情報・顧客情報をはじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。

4.従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。

5.環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に行動する。

6.「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。

7.市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底する。

8.事業活動のグローバル化に対応し、各国・地域の法律の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、当該国・地域の経済社会の発展に貢献する。

9.経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内ならびにグループ企業にその徹底を図るとともに、取引先にも促す。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を確立する。

10.本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行う。

2010年7月より、スズトクホールディングス（株）は日本経済団体連合会に加盟。当グループは、企業行動憲章の理念を順守し、循環型社会の一翼を担ってまいります。

本冊子は両面から読み進められる2部構成になっています。
「環境社会活動データを見る」では、活動の成果を数値やグラフで紹介。
「環境社会活動レポートを読む」では、グループの取り組みを、読み物にまとめました。

お問い合わせ：スズトクホールディングス株式会社
TEL：03-3293-6301　FAX：03-3219-5935　URL：http://www.suzutoku.co.jp/ho/
※本冊子の感想・ご意見については
メールアドレス〈 **holdings@suzutoku.co.jp** 〉までお願いします。

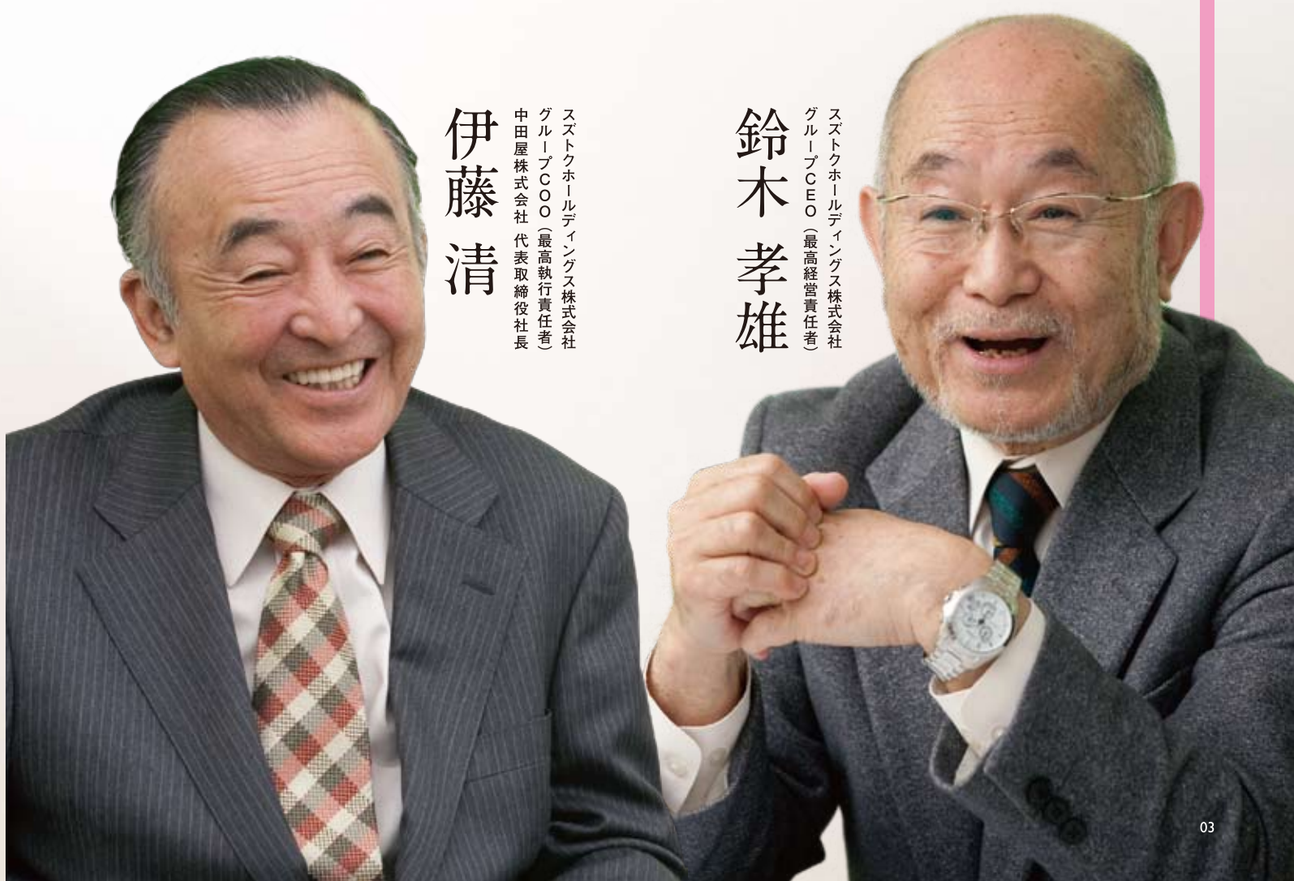
Top Commitment

「ハート」を胸に次の世代に誇れる社会を残したい

2012年、スズトクホールディングスは設立5周年を迎えました。
リーマンショック、東日本大震災など、激動の5年間を乗り切ることができたのは、
ひとえにお客様、お取引先様、地域の方がたのご愛顧、ご協力があってこそ。心よりお礼申し上げます。

5年を経て、私たちの本業である総合リサイクル業に対する期待は、ますます大きくなっています。
こうした期待に応えるためにも、私たちは「利益」より、
社会に貢献するという「ハート」を大切にする企業でありたいと考えています。
「目に見えるものをすべて再資源化する」という意気込みで、人材教育、新設備導入、研究開発などに積極的に投資。
技術力にさらなる磨きをかけ、資源リサイクルの可能性を追求していきます。

「総合リサイクル業」は未来をつくる仕事――。
これからも、次の世代に誇れる高度循環型社会の実現に邁進していく所存です。



スズトクホールディングス株式会社
グループCEO（最高経営責任者）
鈴木 孝雄

スズトクホールディングス株式会社
グループCOO（最高執行責任者）
中田屋株式会社 代表取締役社長
伊藤 清

スズトクグループ

さまざまな機能を駆使して
再資源化、適正処理を行ないます。

金属リサイクル
鉄・非鉄スクラップを
切断、圧縮、破砕、選別し、
メーカーへ出荷します。

家電リサイクル
法に定められた適正な方法で、
廃家電の処理、
再資源化を行ないます。

自動車リサイクル
使用済み自動車の破砕処理による
再資源化に加え、解体、
中古パーツ再生を行ないます。

収集・運搬
廃棄物の収集、
運搬などを行ないます。

エコソリューション事業
全国の廃棄物処理ニーズに対応し、
適正かつ効率的なリサイクル
フローを提案します。

その他 フロンやガラスなどは、委託先企業と協力し適正に処理します。

社　会

使用済み資源

廃自動車
廃自販機
金属スクラップ
工場発生廃材・廃鋼材など
廃家電
廃OA機器
廃業務用電子機器
その他
（什器、廃プラスチック、古紙、雑品）

資源の受け入れ（年間）
104万
7,300トン

再資源化して還元（年間）
89万
9,400トン

製造業などで再商品化

グループの事業

鉄・非鉄、家電、自動車など、幅広い品物のリサイクル事業を展開。高度循環型社会の形成に貢献しています。

美しい自然環境と豊かな社会を次の世代へ残す。このミッションの下、スズトクグループは、一つでも多くの使用済み資源をリサイクルするための事業を展開しています。

私たちの生活や事業活動から発生する廃棄物は、ライフスタイルの変化、産業の高度化などにより、年々その種類や量が増加しています。こうした状況に対応するため、事業会社8社の総合力を結集。各々の強みを生かすことで、幅広いリサイクルニーズにお応えします。

今年度の資源受け入れ量は104万7,300トン。そのうち、89万9,400トンを再生資源として再び社会へ還元しました。

Summary of Business

2011年度 資源リサイクルの全体像

使用済み資源を、再び使えるものにして社会へ送り出す。それがスズトクグループのミッションです。そのためのあらゆる事業活動において、使用するエネルギー、発生廃棄物（残渣）量の削減に取り組み、環境負荷をできる限り減らすことを目指しています。

受け入れ資源量および再生資源量

受け入れ資源量

●金属スクラップ	787,800 t
●産業廃棄物	51,000 t
●廃自動車	151,600 t
●廃自販機	12,300 t
●廃家電	43,200 t
●古紙	1,400 t
●合計	1,047,300 t

スズトクグループ

再生資源量

●回収鉄	848,000 t
●回収非鉄金属	42,000 t
●製紙原料	1,800 t
●その他再資源化物	7,600 t
●合計	899,400 t

2011年度はグループ全体で1,047,300tの資源を受け入れ、899,400tを再生資源として社会へ還元しました。

品目ごとの内訳を見ると、金属スクラップの受け入れ量は2010年度比で約5%の増加。廃自販機、古紙の受け入れも昨年度比で大きく増加しました。

一方、産業廃棄物、廃家電の受け入れは減少。受け入れ資源量の合計では昨年度比2,200tの微減となっています。

なお、再資源化物の還元率は2010年度と同じ86%でした。

再資源化物の還元率

約86%※を社会に還元

※還元率（%）は「再生資源量÷（再生資源量＋発生廃棄量）×100」で算出

■ 事業活動にともなう発生物 ■

2011年度の発生廃棄物量は合計141,870tでした（フロンを含む）。受け入れた品物を再資源化する過程では、どうしてもリサイクルできないものが発生します。そうした残渣を適正に処理し、環境負荷を最小限にとどめることも、リサイクル事業者としての責務です。

グループ内で再資源化できないものは、外部処理業者へ処理委託を行ないます。その後、委託先の事業者は、焼却、埋立、破壊（フロン）といった方法で適正な処理を行なっています。

発生廃棄物量と処理方法

処理方法	量
焼　却	99,700 t
埋　立	42,000 t
破壊（フロン）	170 t
合　計	141,870 t

■ 2011年度の環境投資 ■

2011年度の環境投資額は16億4,300万円です。フェニックスメタル（株）やNNY（株）では、リサイクル率向上のために、磁力選別機の増設や、ミックスメタルの選別装置の新設を行ないました。

また、放射線をめぐるリスクを回避するため、ハンディ式、ゲート式の放射線測定器をグループ各社で多数導入。サニーメタル（株）では新たに家電リサイクル棟を竣工し、あわせて浄化槽や油水分離などの給排水設備にも投資しました。

そのほか、敷地内の植栽などの事業所緑化の取り組みも昨年度に引き続き行なっています。

2011年度環境投資

区　分	金　額（単位：百万円）	主な投資内容
公害防止	363	防音壁、集塵機、放射線測定器
環境保全	28	フロン回収設備、kWhメーター、植栽
資源循環	1,252	非鉄選別設備、シュレッダー設備
合　計	1,643	

※各社直近の決算数値から集計

■ 事業活動に使用したエネルギー ■

グループのリサイクル事業は、処理設備などを安定的に稼働する燃料・エネルギーによって支えられています。限りある資源を有効に活用するため、スズトクグループは事業活動におけるエネルギー使用の効率化に尽力しています。

今年度の使用量は下表およびグラフのとおりです。昨年度に続き、都市ガス・LPG・アセチレンの使用量を大幅に削減。使用量は昨年度比で約18%抑えています。そのほか、軽油・灯油・ガソリン、電力、用水については、それぞれほぼ昨年度と同じ使用量で推移しています。

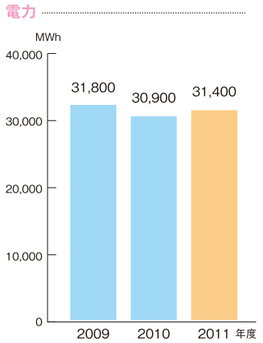
事業所のエネルギー等使用量

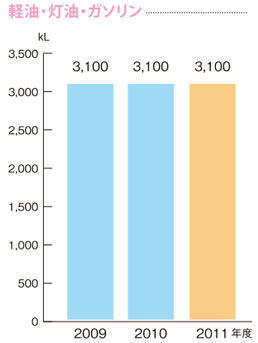
種　類	量
電　力	31,400 MWh
軽油・灯油・ガソリン	3,100 kL
都市ガス・LPG・アセチレン	34,000 kg
用水	108,000 ㎥

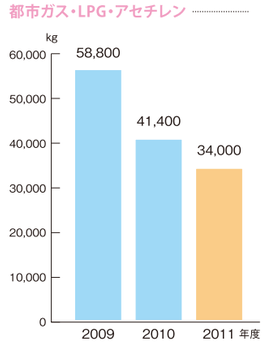
省エネ法への対応

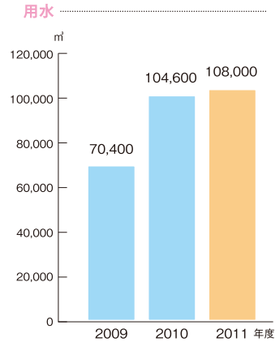
特定事業者	エネルギー使用量（2011年度、原油換算）
鈴　徳	2,355 kL
中田屋	2,843 kL
フェニックスメタル	2,447 kL

省エネ法では、企業全体のエネルギー使用量が1,500kL／年以上の企業を「特定事業者」に指定。エネルギー使用の把握と管理を義務付けています。グループのうち、特定事業者に該当するのは上記3社です。









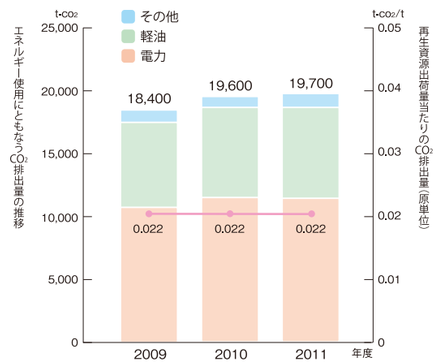
■ 事業活動で排出されるCO₂ ■

トラックによる運搬、機械設備の操業時などに空気中へ排出される二酸化炭素（CO_2）の削減にも努めています。今年度のCO_2排出量は、昨年度とほぼ同量の19,700t-CO_2で推移しました。

今後もグループでは引き続き、CO_2削減に向けた取り組みを行なっていきます。

CO_2排出量

エネルギー使用にともなうCO_2排出量	19,700 t-CO_2
再生資源出荷量当たりのCO_2排出量	0.022 t-CO_2/t



環境マネジメントシステムについて

スズトクグループは、9社すべてで国際規格ISO14001に適合する環境マネジメントシステム（EMS：Environmental Management System）を整備。
各社・事業所ごとの目標を設定し、事業活動における環境負荷低減を目指しています。

■ 環境マネジメントシステムの概要 ■

私たち「リサイクル業」の特性の一つに、事業内容がそのまま環境保全に結びつくことがあります。そのため、グループのEMS運用にあたっては、本業の事業品質をさらに高度化することで、循環型社会の形成に貢献することを基本理念と位置づけています。

■ スズトクグループの環境方針 ■

基本理念

地球温暖化を始めとする地球環境問題は深刻さを増し、それらへの対応は人類共通の重要課題となっている。このような状況に対し、スズトクグループはリサイクル事業と廃棄物処理事業の推進により循環型社会の形成に貢献することが総合リサイクル業としての社会的使命であると認識し、地球環境及び地域環境の保全と環境負荷の低減に向けて積極的な施策を推進する。

基本方針

1. ISO14001に適合する環境マネジメントシステムを運用し、継続的に改善するとともに、汚染の予防に努める。
2. 当グループの業務に関する法的要求事項及び当グループが同意するその他の要求事項を順守する。
3. 業務を通じて一人ひとりが知恵を出し合い、以下に取り組む。
   - ❶資源回収の充実とリサイクルの高度化
   - ❷地域社会への貢献
   - ❸省資源・省エネルギー・廃棄物の削減
   - ❹安定した資源リサイクル

2007年11月1日
スズトクホールディングス株式会社
代表取締役社長 グループCEO 鈴木孝雄

■ 2011年度の取り組み ■

グループ各社の取り組み

2011年度も、各社が個別に目標を掲げ、環境保全への一層の貢献を目指した活動を行ないました。

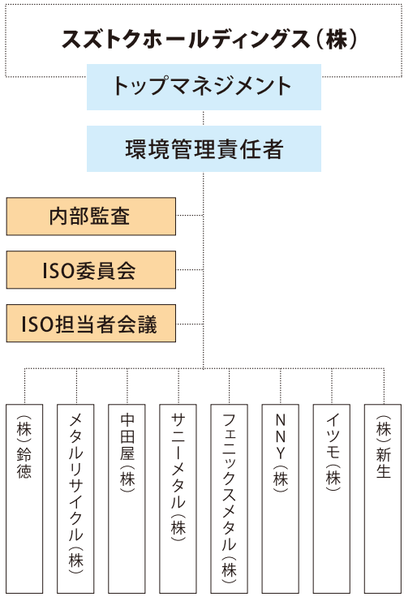
たとえば、（株）新生は、受け入れ木くずおよび回収木くずを80%以上チップ化し有価売却するという目標を達成。投入前の付着物の除去、処理後のチップのうち、規格より大きいものは再処理にかけるなどの取り組みを徹底したことで、達成につなげました。

さらに、（株）鈴徳 児玉営業所では、ミックスメタル回収量の増大を目的に、新しい比重差選別機を導入。年度内の稼働を目標に設定しました。導入プロセス、稼働時の最適処理作動検証などにより、目標を達成。グループのリサイクル回収率を向上し、環境保全に貢献しています。

グループ内のさまざまな取り組み

グループ各社の各事業所が、それぞれISOの管理担当者を選任。定期的に会議を開き、効果的なEMSの運用方法を検討しているほか、実際に効果があった取り組みの例などを持ち寄り、共有・活用しています。

EMS運用のための組織体制



フロン回収
空調機器の冷媒などに使われるフロンは、フロン回収・破壊法によって適正回収が義務付けられています。今年度、中田屋（株）加須工場では、EMSの目標に「フロン漏洩ゼロ」を設定し、達成。確実な処理を実現しています。

ISO担当者会議
今年度のISO担当者会議は2012年5月に開催。来期以降、遵法・環境室のISO管理体制を大きく変更するのにともない、スムーズな体制変更を実現するための情報共有を行ないました。

■ グループの目標設定と達成率（2011年度）■

下表が、2011年度にスズトクグループ各社・各事業所が設定した目標の一覧です。省エネ・省資源、法令順守といった本業に関わるものから地域社会への貢献まで、内容は多岐にわたります。今年度の目標設定総数は74件。そのうち、約92%に当たる68件の目標について達成しました。

全74件中 68件 目標達成率 約92%

環境方針	省エネ・省資源・廃棄物削減	資源回収の充実とリサイクルの高度化	安定した資源リサイクル（危機管理）	法令順守・汚染の予防	地域社会への貢献	継続的改善
個々の事業所で掲げた主な目標	7月～9月の使用最大電力を1,447kW以下に 10月～6月は電気使用量を昨年度比で3%削減	回収プラスチック（PP）の売上数量 5,000ｋｇ／年以上	近隣住民からの騒音・振動に関するクレームゼロ	フロン漏洩ゼロ	地域活動への参加・協力・貢献 2回以上／月	環境改善、業務改善、職場改善などの個人目標を各人2件以上設定し実行
	7月～9月の電力使用量を昨年度比で10%削減	ミックスメタルの売上単価を昨年度比で8%増	重大事故防止のため ①日常点検実施・記録 ②教育訓練を実施 ③賞罰制度の実施	PCBトランスの受入排除そのための教育を年2回実施	企業団地内における不法投棄のない地域づくりの実施	問題点提起または改善提案各人1件／月
	①省電力型OA機器への入替 ②エアコン設定温度を冷房27度・暖房21度とする	新比重差選別機の導入および年度内の稼働	工場内通路等の路盤の凹凸を修繕	有害物質（アスベスト）の受入排除そのための教育を年2回実施	公道待機車両による通行障害の緩和	非鉄勉強会の実施 1回／2カ月
	燃費向上のための個人目標を1人1件以上設定し、日常点検表で実行確認	木くずをチップ化し有価売却受入・回収量合計の80%以上	修繕費を昨年度以下に削減	排水排出基準値の順守 BOD（※）8mg／L以下	千葉港港湾運送事業協同組合主催の火災防止、消火活動、防災訓練等の講習への参加	
	コピー用紙への裏紙の再利用220枚／月以上	入荷物に対するシュレッダーダストの割合を50%以下に	事故件数を昨年度以下に削減	岸壁および海上への油流出ゼロ	市民団体等からの見学者受入1件／年以上	
	上記を含め目標設定件数 **26件**	上記を含め目標設定件数 **22件**	上記を含め目標設定件数 **7件**	上記を含め目標設定件数 **5件**	上記を含め目標設定件数 **6件**	上記を含め目標設定件数 **8件**
達成件数	目標達成件数 22件 達成率 84.6%	目標達成件数 20件 達成率 90.9%	目標達成件数 7件 達成率 100%	目標達成件数 5件 達成率 100%	目標達成件数 6件 達成率 100%	目標達成件数 8件 達成率 100%

※BOD…Biochemical Oxygen Demand（生物化学的酸素要求量）

総合評価と未達成項目について

今年度はグループ全23拠点で74件の目標を設定。1拠点平均3.2件と、積極的な取り組みを行なった1年でした。内容に関しては、ほとんどの拠点が「資源回収の充実とリサイクルの高度化」の項目の目標を設定。これは「業務に直結した目標設定および目標達成手段の推進」という昨年の評価指針を受けたものです。一方、震災の影響による夏期節電の全社方針に従い、省電力関連の目標数も昨年の倍以上となりました。

達成できなかった6件はすべて「省エネ・省資源・廃棄物削減」「資源回収の充実とリサイクルの高度化」の項目で発生。いずれも計画した手段の実行度評価は良かったものの、残念ながら未達となりました。

原因としては、資源回収については入荷物の構成や市況の変化を読み切れなかったこと、また省電力については、7月～9月といったピーク時の電力使用量を下げるなど、目標設定がやや過大だったことなどが考えられます。これらの点は来年度以降の課題とし、引き続き事業活動の環境負荷低減を推進していきます。

労働安全衛生の確保・推進

「安全」は、グループの事業においてすべてに優先すべきもの。安全な労働環境の整備なくして、適正リサイクルは実現できません。そのため、スズトクグループでは、現場に存在するリスクを的確に把握し、効果的な対策を打つための取り組みを継続的に行なっています。

■ 労働安全衛生体制の概要 ■

産業の高度化、新素材の登場などを背景に、リサイクル業においては、取り扱う品物が日々移り変わります。これにより、処理時のリスク要因も刻々と変化。労働の安全を維持するためには、継続的な改善活動が欠かせません。

そのため、グループでは右図のような労働安全衛生管理体制を整備しています。この体制のもと、各事業所の事故例の共有、安全ルールの策定・呼びかけなど、社員の安全意識を向上するための施策を実施。また、インフラ整備による労働環境改善にも尽力しています。

■ 事故の再発を防ぐ「事故報告システム」■

危険はないに越したことはありません。しかし、現場作業においては、どうしても大小の事故が発生することがあります。そうした事例を再発防止に役立てるため、スズトクグループではITを活用したシステムを整備。この「事故報告システム」は、事故の発生経緯や内容を、グループ内の全拠点で閲覧できるようにしたものです。

事故情報を登録すると、社員全員にメールにて通知されます。発生時の詳しい状況などを全拠点で逐次共有し、再発防止に役立てています。

また、合同安全衛生遵法委員会では、システムに登録された情報を定期的に検証。特に重要と思われるものについては具体的な再発防止策を策定し、各事業所・社員へ発信しています。

■ 2011年度の具体的な取り組み ■

人身無事故無災害記録を2623日へ更新

中田屋（株）伊勢崎工場は、人身無事故無災害記録を継続中。2012年6月30日現在、2623日を記録しました。

達成のために、同工場ではグループ他拠点の事故事例を朝礼で共有。特に、人身に関わる事故については即時共有を心がけ、発生防止に努めています。また、季節ごとに起こりがちな事故について、社員間で周知徹底。夏期の熱中症、梅雨時の雨によるスリップ事故などを予防しています。

こうした同工場の取り組み内容は、合同安全衛生遵法委員会で各拠点に展開。グループの労働安全衛生の向上に役立てられています。

グループ各社、およびグループを横断した取り組み

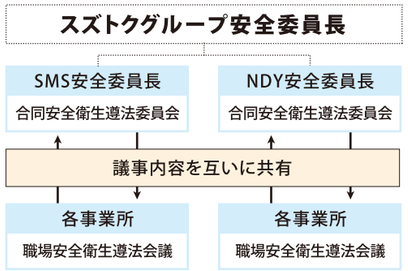
今年度は、労働安全衛生の取り組みを、グループ内外で共有するための各種施策を実施しました。

まずSMS合同安全衛生遵法委員会では、各場所の安全管理上の取り組みについて、グループ内での共有を推進。2012年6月には、各事業所の安全管理担当者がメタルリサイクル（株）の事業所を視察し、効果的な取り組みや改善が期待される点などについて議論しました。

またNDY合同安全衛生遵法委員会では、グループの取り組みを社外にも共有。2012年1月に中田屋（株）富士工場で行なわれた定例会議には、以前より交流のあるリサイクル業者も参加し、両社の取り組みについて意見交換を行ないました。

※SMS…鈴徳、メタルリサイクル、新生からなるグループ
NDY…中田屋、サニーメタル、フェニックスメタル、NNY、イツモからなるグループ

労働安全衛生の管理体制

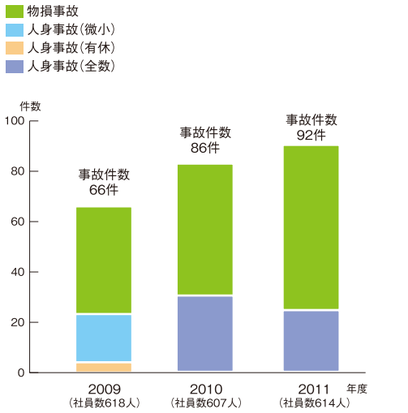


SMS、NDYそれぞれの合同安全衛生遵法委員会と、各事業所の職場安全衛生遵法会議とが密接に連携し、各社の取り組みを共有。その後、事業所固有の状況をふまえ、具体的な施策に反映しています。

SMS合同安全衛生遵法委員会
各社の安全管理担当者が集まり、2012年6月にメタルリサイクル（株）の視察を実施。独自の安全管理の方法などについて情報を共有し、他拠点の参考としました。同時に、さらなる改善案についても、意見交換を行ないました。

事故数の推移

※件数は人身・物損事故でカウント
※2010年度より微小事故、有休事故を区別せず集計



今年度は92件の事故が発生。残念ながら、昨年度より6件の増加となりました。事故例を共有し対策を打つことで、来年度の削減に努めています。

コンプライアンスの徹底

「安全」と並び、グループの事業にとってもっとも重要なのが「コンプライアンス（法令遵守）」です。お客様や社会へ継続的に貢献するためには、事業のあらゆる側面を、法に照らして運用することが必須。そのため、現場の監査、社員への法知識教育などにより適正な事業活動を推進しています。

■ グループの遵法を司る「遵法・環境室」■

グループのコンプライアンスを管轄する部門として、スズトクホールディングス（株）に遵法・環境室を設置しています。各事業所が法に則った業務を実施できているか監査する「遵法監査」を行なうほか、各現場からの法律に関する日常的な問い合わせ対応、社員向け法律研修の実施などを行なっています。

また、廃棄物の処理委託は、契約書やマニフェストなど、各種の書類に基づいて進められます。それらの書類や、各事業所が所有する許可証の期限などをITシステムによって一元的に管理する役割も担っています。

■ コンプライアンス徹底のための仕組み ■

事業の適法性を守る「遵法監査」

遵法・環境室スタッフがグループの全事業所を訪問し、廃棄物処理の適法性、書類管理の状態などを厳正に審査するのが「遵法監査」です。

監査は、1年に1回の「遵法監査」、遵法監査の指摘の改善状況を再チェックする「フォローアップ監査」、そのほか年ごとの重点項目などをチェックする「臨時監査」の3種類で構成。指摘項目の改善方法については、遵法・環境室が現場とともに検討し、実行までのプロセスを支援します。

単に不備を指摘するだけではなく、改善が認められるまでを継続的にフォローすることで、グループでは全事業所の適法な業務を徹底しています。

監査における2011年度の指摘状況

今年度の遵法監査での指摘項目数は、全拠点合計で138件。昨年度の215件から77件の減少となりました。

また遵法監査後、フォローアップ監査までの間は遵法・環境室が各拠点と一体になって改善に取り組み、対策を実施。フォローアップ監査では、指摘項目138件すべての改善完了が確認されました。

処理委託先の監査も実施

廃棄物の処理委託先に対する訪問審査も行なっています。これは、グループが排出事業者責任を果たすことはもちろん、お客様がより安心して処理を委託できる体制を構築・維持するためでもあります。

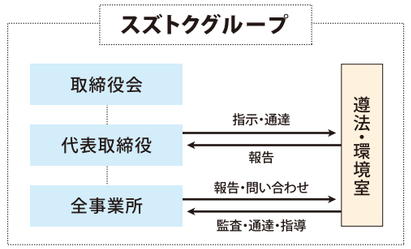
本年度は昨年度の倍以上となる、新規委託先5社を含む全48社を訪問。監査項目リストを作成し、「マニフェスト管理の状況」「帳票の保管状況」など、厳正な監査を実施しました。

2011年度の具体的な取り組み

今年度、遵法・環境室では、遵法・環境室規定の見直しを実施。これは、グループ内の法律にまつわる業務の運用ルールを定めたもの。昨今の法改正などを反映し、大幅な情報の更新を行ないました。同様に、遵法監査の監査項目についても、小規模な見直しを行なっています。

また、社員への遵法教育も継続して実施。今年度は各拠点からテーマを募り、それに基づく教育を行ないました。

コンプライアンス確保のための体制



代表取締役の指示の下、コンプライアンスを司る部門として遵法・環境室は設置されています。各現場に対する厳正な監査を行なうと同時に、現場から寄せられる法律関連の問い合わせにも対応しています。

遵法監査での「模擬インタビュー」
今年度の遵法監査では、現場担当者への模擬インタビュー形式の審査を導入。外部業者が視察に訪れた際の対応に不備がないかどうかを確認しました。

遵法・環境室が法律研修を実施
今年度は、各拠点が希望するテーマの法律研修を、全拠点最低1回ずつ実施。「他拠点の監査で多い指摘箇所とは」「遵法監査のチェック項目について」などのテーマを取り上げました。また、排出事業者様向けの研修も実施しました。

グループ概要・会社紹介

高度循環型社会の早期実現のため、
グループ各社はそれぞれの強みを生かした事業活動を展開しています。
全8社の総合力により、高まる社会の要請とお客様ニーズにお応えします。

スズトクホールディングス株式会社

事業会社8社を統括する持株会社。管理部、システム室、遵法・環境室が設置されており、グループの事業統括、システム管理、コンプライアンスなどを担っています。

■設立 2007年7月
■資本金 1億円
■売上高 5億7,000万円（2012年6月期）
■社員数 19名
■所在地
〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19（本社）
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル（管理部、システム室、遵法・環境室）
■連絡先
TEL:03-3293-6301（管理部）
FAX:03-3219-5935
E-Mail:holdings@suzutoku.co.jp
■ホームページ http://www.suzutoku.co.jp/ho/

主な財務関連データ（グループ全体）

売上高※1	516億8,800万円
経常利益※1	3億9,400万円
従業員数※2	614人

※1
グループ全社の直近の決算数値を単純合算したもの
※2
2012年6月30日現在。経営層を含み、派遣・請負作業の従事者は除く

株式会社 鈴徳

鉄を中心とする金属のリサイクル業を主としながら、一部、産業廃棄物処理も行なっています。創業108年の歴史と実績を基に、東京および近郊全7カ所の工場で事業を展開しています。

■設立 1935年2月（創業1904年2月）
■資本金 1,000万円
■売上高 151億7,500万円（2012年2月期）
■社員数 117名
■本社 〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19
■TEL 03-3631-5472
■ホームページ http://www.suzutoku.co.jp

取扱品目

金属スクラップ	376,875 t
産業廃棄物	13,704 t
廃自動車	7,153 t
廃自販機	253 t

メタルリサイクル株式会社

金属のリサイクル、産業廃棄物処理に加え、使用済み自動車の引き取りから破砕までの一貫処理が可能。廃自動車から回収した中古パーツは一般のお客様向けに販売も行なっています。

■設立 1999年11月
■資本金 9,000万円
■売上高 41億6,600万円（2012年2月期）
■社員数 100名
■本社 〒350-0166 埼玉県比企郡川島町戸守440
■TEL 049-297-2111
■ホームページ http://www.metal-r.co.jp

取扱品目

金属スクラップ	55,038 t
産業廃棄物	3,464 t
廃自動車	29,955 t
廃自販機	2,459 t

中田屋株式会社

関東および静岡県の8拠点で、鉄・非鉄のリサイクル、産業廃棄物、廃自動車、廃自販機の処理、家電リサイクルなどを幅広く展開。そのほか、全国での廃棄物処理ネットワークを構築しています。

■設立 1951年1月
■資本金 1億円
■売上高 194億500万円（2011年10月期）
■社員数 179名
■本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル
■TEL 03-3293-6781
■ホームページ http://www.ndy.co.jp/

取扱品目

金属スクラップ	315,231 t
産業廃棄物	23,243 t
廃自動車	31,769 t
廃自販機	1,850 t
廃家電	11,265 t
古紙	677 t

サニーメタル株式会社

グループ唯一の関西拠点。主に産業廃棄物、資源ごみなどのリサイクルを行なうほか、家電リサイクルも実施しています。また、地域で唯一のシュレッダーを持つ事業所でもあります。

■設立 1986年6月
■資本金 1億円
■売上高 16億4,300万円（2012年3月期）
■社員数 39名
■本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 （事業所）〒554-0052 大阪府大阪市此花区常吉1-1-13
■TEL 06-6461-2818
■ホームページ http://www.sunny-metal.co.jp/

取扱品目

金属スクラップ	8,349 t
産業廃棄物	3,824 t
廃自動車	12,495 t
廃自販機	2,409 t
廃家電	4,289 t
古紙	116 t

フェニックスメタル株式会社

2009年にリニューアルしたグループ随一の敷地面積を誇る事業所により、大量の品物の処理が可能。鉄・非鉄、産業廃棄物から家電まで、多彩な品目のリサイクル処理を行なっています。

■設立 1987年12月
■資本金 1億円
■売上高 71億9,200万円（2012年3月期）
■社員数 39名
■本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 （事業所）〒290-0067 千葉県市原市八幡海岸通7-3
■TEL 0436-43-1261
■ホームページ http://www.pmc.to

取扱品目

金属スクラップ	92,164 t
産業廃棄物	4,798 t
廃自動車	77,529 t
廃自販機	5,836 t
廃家電	22,372 t

NNY株式会社

重液選別機によるミックスメタルの高精度な選別回収を行ない、グループのリサイクル率向上に貢献しています。そのほか、家電や廃プラスチックのリサイクルなども行なっています。

■設立 1989年10月
■資本金 5,000万円
■売上高 19億700万円（2011年8月期）
■社員数 28名
■本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 （事業所）〒324-0036 栃木県大田原市下石上1505-11
■TEL 0287-29-2777
■ホームページ http://www.nnycorp.jp/

取扱品目

金属スクラップ	1,448 t
ミックスメタル	25,126 t
産業廃棄物	1,607 t
廃自動車	5 t
廃家電	5,311 t

イツモ株式会社

グループの運送部門を担当。計96台の車両により、1都24県5市での産業廃棄物収集運搬業を展開しています。また、一般貨物自動車運送事業、第一種利用運送事業の許可も取得しています。

■設立 1961年5月
■資本金 5,000万円
■売上高 12億1,600万円（2012年3月期）
■社員数 75名
■本社 〒263-0004 千葉県千葉市稲毛区六方町210
■TEL 043-423-3415
■ホームページ http://www.suzutoku.co.jp/itm/

保有輸送用車両

4トン車	3台
8トン車	13台
トラクタ	22台
セミトレーラー	23台
12～15トンダンプ	18台
10～15トントラック	17台
	（計96台）

株式会社 新生

関東を中心に1都8県で廃棄物収集運搬業を展開。そのほか、機密文書をはじめとする古紙の処理、木材のチップ化など、グループでも他に類を見ない品目の処理を行なっています。

■設立 1993年10月
■資本金 5,000万円
■売上高 4億1,400万円（2012年4月期）
■社員数 18名
■本社 〒355-0812 埼玉県比企郡滑川町都25-21
■TEL 0493-57-2170
■ホームページ http://www.shinsei-env.co.jp

取扱品目

金属スクラップ	1,811 t
産業廃棄物	3,350 t
古紙	632 t

保有輸送用車両

2トン車	3台
4トン車	10台
10トン車	1台
	（計14台）

※取扱品目：2011年7月1日～2012年6月30日、保有輸送用車両：2012年6月30日現在

許認可の概要・第三者意見

許認可・登録の概要（取得自治体数）

2012年6月末現在

許認可等の内容	産業廃棄物			一般廃棄物		自動車リサイクル			東京都優良性基準適合認定制度（産廃エキスパート）		優良産廃処理業者認定制度	
	中間処分業	収集運搬業	特別管理収集運搬業	処分業	収集運搬業	引取業・フロン類回収業	解体業・破砕業	第一種フロン類回収業	再生事業者登録	処分業	収集運搬業	処分業
株式会社 鈴徳 http://www.suzutoku.co.jp	6	6		1	1	3	3	4	7	6	4	1
メタルリサイクル株式会社 http://www.metal-r.co.jp	2	8	1		1	2	2	2	1	2	5	
中田屋株式会社 http://www.ndy.co.jp/	6	6				4	5	9	6	6	6	1
サニーメタル株式会社 http://www.sunny-metal.co.jp/	1	8					1	1	1	1	8	
フェニックスメタル株式会社 http://www.pmc.to	1	1		1			1	1	1	1	1	
NNY株式会社 http://www.nnycorp.jp/	1	3		1	3	1	1	1	1	1	3	
イツモ株式会社 http://www.suzutoku.co.jp/itm/		26										
株式会社 新生 http://www.shinsei-env.co.jp	1	9	5		1				1			

※許認可の詳細はグループ各社ホームページをご参照ください。

優良産廃処理業者認定制度

通常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした優良な産廃処理業者を、都道府県・政令市が審査して認定する制度です。2010年度の廃棄物処理法改正に基づいて創設された制度で、2011年4月から運用開始されています。2012年6月末現在、グループ全体で処分業17、収集運搬業27の認定を受けました。

〈優良基準〉

1. 実績と遵法性（5年以上の実績があり、この5年間に特定不利益処分を受けていないこと）
2. 事業の透明性（事業内容等を一定期間継続してインターネットで公開）
3. 環境配慮の取り組み（ISO14001規格やエコアクション21等の認証の取得）
4. 電子マニフェスト（電子マニフェストシステムに加入していること）
5. 財務体質の健全性（①直前3年の各事業年度のうち、いずれかの事業年度における自己資本比率が10%以上であること、②直前3年の各事業年度における経常利益金額等の平均値が零を超えること、③産業廃棄物処理業の実施に関連のある税、社会保険料および労働保険料を滞納していないこと）

※適合が確認された処理業者の情報は、公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団のHP「産廃情報ネット（http://www.sanpainet.or.jp/）」にて公開されます。

スズトクグループ「環境社会報告書 2012」への第三者意見

■ 優良産廃処理業者としての認定取得数が一気に増えています ■

スズトクグループの環境社会報告書については、2009年から第三者意見を述べさせていただいています。「総合リサイクル業」のトップ企業として、スズトクグループの取り組みは業界の模範となる取り組みであると考えます。

特に、スズトクグループの優良産廃処理業者の認定取得数は、2011年6月末段階で処分業4件、収集運搬業2件でしたが、2012年6月末段階で、処分業17件、収集運搬業27件に一気に増加しました。処分業については、許可を受けているほぼすべての都道府県から優良産廃処理業者の認定を受けている状況です。読み物のパートで紹介されている電子マニフェスト制度の運用や「遵法・環境室」の活動がこれを支えています。今後、グループの関連事業者のすべてが優良産廃処理業者の認定を受けられるように引き続き努力されることを期待します。

■ ユニークでわかりやすい報告書となっています ■

報告書の構成や体裁については、両面から読み進むという昨年の形式を踏襲されています。わかりやすい体裁だと思います。今年の読み物パートにおいては、従業員のお子さんの職場訪問というユニークな試みがされています。環境教育という側面のみならず、社会的意義のある企業としての自負が浮かび上がる企画で高く評価できます。

一方で、トップコミットメントが昨年の報告書よりも短くなってしまったことは残念に思います。これまでの成果と課題の認識と今後の対処方針をもう少し具体的に述べた方がよかったのではないでしょうか。

■ グループ全体での目標管理をおすすめします ■

環境マネジメントシステムの項では、グループの各企業・事業所が個別に目標を設定し、それが達成できたかどうかが報告されています。昨年に比べると未達成項目の比率が減少し、またその内容が少し詳しく説明されています。

一方、気になるデータも報告されています。人身事故は昨年より減少しているものの、物損事故が増加し、事故全体の発生回数が増えてしまいました。スズトクグループでは、事故情報を共有し再発防止に努める仕組みが備わっていますので、その仕組みを十分に機能させ、事故の発生抑制を図っていただきたいと思います。

スズトクホールディングス設立から5年を経過しています。今後、各企業・事業所段階での目標に加えて、年間再資源化量、省エネの原単位目標、事故発生抑制、優良産業廃棄物処理業者の認定などの項目について、グループ全体の目標を設定することも検討されてはいかがでしょうか。

千葉大学大学院
人文社会科学研究科 教授
倉阪 秀史氏

1964年三重県生まれ。87年東京大学経済学部経済学科卒業。同年、環境庁入庁。環境基本法、環境影響評価法などの立案に従事。98年千葉大学法経学部助教授、2008年より同教授、2011年より現職。専門は、環境政策論、環境経済論。主著に『環境政策論【第2版】』（信山社）、『環境を守るほど経済は発展する』（朝日選書）、『環境と経済を再考する』（ナカニシヤ出版）、『環境ー持続可能な経済システム』（編著）（勁草書房）など。

編集方針

本報告書は、グループ各社の持株会社スズトクホールディングス（株）の設立（2007年7月2日）後、5回目の環境社会報告書となります。スズトクグループの企業理念である「4つの責任」に則り、環境、社会全般にわたる取り組みを包括的に記載しております。グループをご理解いただくための一助となるよう、今後もさらに報告内容の充実を図ってまいります。

■報告対象範囲

スズトクホールディングス（株）とグループ会社8社を報告対象としています（P12～13参照）。

■対象期間

2011年7月から2012年6月　※これ以外の期間に集計した数値などは、その旨を該当ページ内に明記しました。

■次回発行予定

2013年9月を予定しています。

License / Third-party Evaluation

VOICE OF STAFFS

従業員の声

ここまで紹介したもののほかにも、
スズトクグループでは今年度も
さまざまな取り組みを行ないました。
その一部を、社員の声を通じて
ご紹介します。

NNY（株）
那須事業所 大川 文康

職場意識改善に向けた取り組みを徹底

今年度は、グループ全社で職場意識改善に取り組みました。テーマは「全員フォワード営業に向けて」。会社の“品格”を高めるために、自分はどう行動すべきか。それを社員一人ひとりが検討し、全社員のコメントすべてを掲載した冊子を作成しました。私自身も“お客様第一主義”の重要性を再確認。社内での認知徹底も図り、意識改善に生かしています。

中田屋（株）
エコソリューション部 中川 友里恵

社外企業とも研修の機会を共有

中田屋が窓口をつとめる全国200社以上の業務委託連携網、「マリソルネットワーク」の全体会議を開催しました。今年度は、被災した福島県、宮城県の企業の方をゲストスピーカーに迎え、BCP（不測の事態が起きた際の事業継続計画）について話し合いを実施。各社の意識を高め、お客様へのサービス向上につなげたいと考えています。

（株）鈴徳
児玉営業所 鳥羽 真由美

出産、職場復帰も安心の支援制度

出産にあたって3カ月間の産前産後休暇、および10カ月間の育児休業を取得しました。休暇に入る際には「復帰を待っているよ」と声をかけてもらえ、とても心強かったです。職場復帰後も、子どもの成長に合わせた配慮をしていただき、育児と仕事の両立を支えてもらっています。

フェニックスメタル（株）　市原事業所 河村 洋平

グループ内研修でノウハウ共有を徹底

中田屋（株）相模原工場での研修に、当社からは私を含めた10名が参加しました。研修のテーマはお客様への対応フロー。挨拶、車の誘導方法、スタッフの連携などについて多くの「気づき」を得ることができました。研修後は各自がレポートを作成し、自社の改善点を抽出。ノウハウの共有・磨き上げにも注力しています。

スズトクホールディングス（株）
管理部 平 洋子

企業内社労士として社員をサポート

保有する社会保険労務士の資格を生かし、グループ内の人事・労務に関する業務を担当しています。社会保険や労働保険手続き、就業規則改定や労働基準監督署対応など、すべて法令がベースになっているので、身につけた知識が役立っていると感じます。これからも、社員が安心して働ける環境づくりに貢献したいと思います。

メタルリサイクル（株）　パーツセンター 富永 浩史

リターナブルの梱包材で CO_2排出量を削減

車のドアや、バンパーなどのパーツを輸送する際、リターナブルの梱包材を使っています。これを100回再利用すれば、段ボールでの輸送に比べ、CO_2排出量を約90%削減できます。現在はエンジン用の梱包材の導入準備も進めており、さらなる環境負荷の低減を目指しています。

イツモ（株）　有山 慎一郎

アルコール検知器の携帯で安全意識を向上

当社では、72名のドライバー全員が、1台ずつ、アルコール検知器を携帯しています。点呼時の呼気検査がスムーズに行なえるほか、一人ひとりの安全運転意識の向上にもつながっていると感じます。プロとして、安全の最優先は当然のこと。会社をあげて、飲酒運転撲滅を推進しています。

サニーメタル（株）　大阪事業所 永田 哲志

勤続25年、定年後も大好きな仕事に従事

定年後も「再雇用制度」によって、クレーン運転手として働いています。サニーメタルに勤めて25年以上が経ちましたが、やっぱり私は、リサイクルを支えるこの仕事が大好き。経験から得た知識・知恵を若い人に伝えながら、体が動く限り、働き続けたいですね。

（株）新生　花坂 宏之

小型家電についての勉強会に参加

小型家電リサイクル法について学ぶ「小型家電委員会事務局会議」に参加しています。この会議には、グループ内・外あわせて11社のリサイクル関連企業が参加。先進事例を学んだり、意見交換を行なうなどして、法律施行に向けた体制づくりの準備を進めています。

スズトクホールディングス（株）
システム室 大場 裕一郎

現場業務をシステム構築でサポート

現場業務の支援を目指したシステム構築に着手しています。たとえばシュレッダー設備の稼働や修繕の記録、消耗品管理などは、それぞれ担当者に委ねられていました。これらをシステム化し、グループ内での情報共有、履歴閲覧などを、より容易にすることが狙い。IT環境の整備により、社員をサポートしていきたいと思います。

スズトクグループ コミュニケーションマップ2012

スズトクグループ全9社は、地域社会との共生を大切にしています。
地域清掃、ボランティア活動、職場体験学習への協力など、毎年さまざまなかたちでの社会貢献活動を実施。
ここでは、グループ各社が本年度行なった主な活動をご紹介します。

I 知的障がいを持つ方に作業環境を提供

サニーメタル（株）大阪事業所は、NPO法人「ダ・カー歩」と連携し、知的障がいを持つ方の受け入れを実施。作業場と休憩所を提供し、カッターによるダンボールの開梱・仕分け、工具を用いた空気清浄器解体などの軽作業を担当してもらっています。

徐々に難しい作業をお任せすることで、幅広い経験を積んでもらえるよう配慮。作業がひと通りできるようになった方は新しい現場へと“卒業”していくため、当事業所はいわば、社会参加の「窓口」となっているのです。

この取り組みでは、2012年3月の開始以来、現在も約10名が常時作業中。障がい者雇用の促進に貢献しています。

H 工場周辺を清掃し、地域社会に貢献

グループ各社は、地域社会とのコミュニケーションの一環として事業所周辺の清掃活動にも積極的に取り組んでいます。

フェニックスメタル（株）市原事業所は、毎月1日の始業前に工場周辺の大規模清掃を実施。近隣の方の通行を邪魔しないよう配慮しながら、清掃活動を行なっています。また、NNY（株）那須事業所も同様の取り組みを長年継続。年に一度、工場周辺道路を社員総出で清掃しています。

G 近隣事業者にも呼びかけ、献血を実施

（株）鈴徳 東京営業所では、献血バスを営業所に派遣してもらい、献血運動を実施しました。当営業所は、昨年までも近隣事業者が行なう献血運動に積極的に参加してきましたが、今年度は東京営業所自身が献血バスの派遣を依頼。さらに多くの社員が献血を行ないました。

また、近隣事業者の方にも協力をお願いした結果、地域の皆様との交流という点でも有意義な一日となりました。

F 「アルミ缶回収優秀校」の推薦・表彰

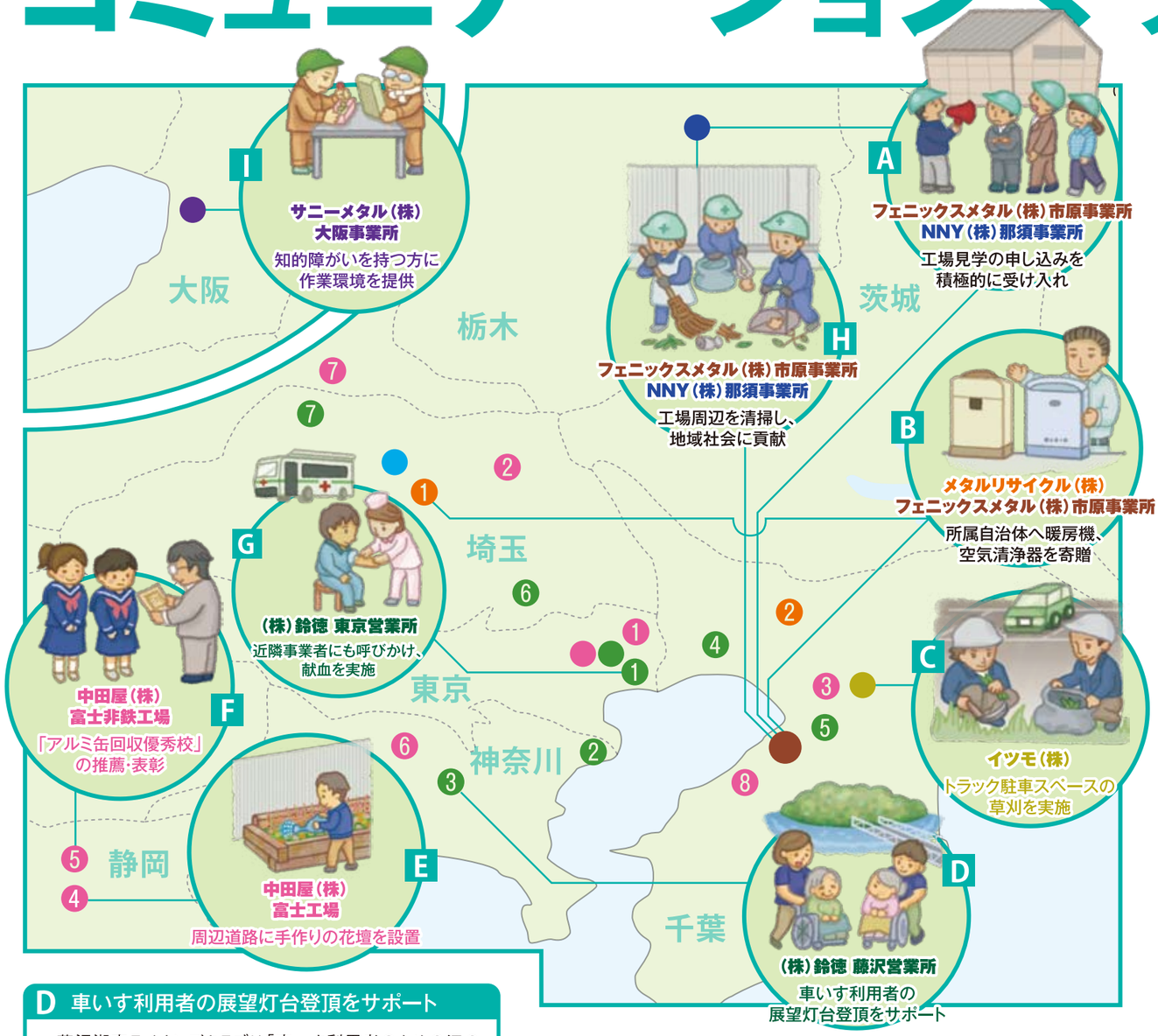
アルミ缶リサイクル協会では毎年、資源回収に尽力した小中学校の協力者表彰を実施しています。同協会の一員である中田屋（株）富士非鉄工場は、今年度、その候補として富士市立須津中学校を推薦。見事、全69の表彰校のうちの一校に選ばれました。

選定対象期間中の同校の回収量は2130キロ。これはアルミ缶約10万個分に相当します。

E 周辺道路に手作りの花壇を設置

静岡県富士市は、目指す緑の都市像を「富士山に似合う緑あふれるまち」とし、行政・住民・企業の三者協働による緑化推進を図っています。

中田屋（株）富士工場では、この指針に賛同し、道路に面したところに新たに花壇を設置しました。廃材の枕木で枠を組むなど、花壇は従業員の手作り。ささやかではありますが、季節ごとに咲く草花は、近隣住民や通行人の目を楽しませています。



D 車いす利用者の展望灯台登頂をサポート

藤沢湘南ライオンズクラブは「車いす利用者のための江の島見学会」を毎年開催しています。今年も（株）鈴徳 藤沢営業所の社員が、この会にボランティアとして参加しました。

急な坂道や階段が多く、車いすでは登ることが困難な展望灯台までの登頂をサポートするのが、この会の趣旨。参加した藤沢営業所の社員は、道の掃除、軽自動車による移動介助などを担当し、車いす利用者の方に、普段なかなか見られない頂上からの景色を楽しんでいただきました。

C トラック駐車スペースの草刈を実施

グループの運搬業務を主に担当するイツモ（株）は、トラックを停めるための広い駐車場を備えています。この駐車場と周辺の草刈を定期的に実施。近隣住民や駐車場前を通る方に不快な思いをさせないよう、常にきれいな状態に保つよう心がけています。

スズトクホールディングス株式会社

●本社／●管理部、システム室、遵法・環境室

株式会社 鈴徳
- ●本社
- ❶東京営業所
- ❷川崎営業所
- ❸藤沢営業所
- ❹船橋営業所
- ❺千葉営業所
- ❻浦和営業所
- ❼児玉営業所

メタルリサイクル株式会社
- ❶本社工場
- ❷千葉営業所

中田屋株式会社
- ●本社
- ❶船堀工場
- ❷加須工場
- ❸千葉工場
- ❹富士工場
- ❺富士非鉄工場
- ❻相模原工場
- ❼伊勢崎工場
- ❽袖ケ浦シッピングセンター

サニーメタル株式会社
- ●本社
- ●大阪事業所

フェニックスメタル株式会社
- ●本社
- ●市原事業所

NNY株式会社
- ●本社
- ●那須事業所

イツモ株式会社
- ●本社

株式会社 新生
- ●本社・工場

A 工場見学の申し込みを積極的に受け入れ

今年度も、グループでは工場見学会を積極的に実施しました。

中でも、NNY（株）那須事業所は、栃木県がウェブサイトで公開する工場見学実施企業の一覧に登録。サイトを通じて清掃業、建設業の業界団体、自治体などから多くの申し込みがあり、それぞれの目的に応じた内容の見学会を企画・実施しました。

またフェニックスメタル（株）市原事業所は、工場見学をおおむね週1件のペースで実施。経済産業省、千葉大学のほか、海外からの見学希望者も受け入れ、グループのリサイクル事業に対する理解を深めてもらいました。

B 所属自治体へ暖房機、空気清浄器を寄贈

グループ各社は毎年、それぞれの拠点が所属する自治体などへ家電製品の寄贈も行なっています。

昨年度に続き、フェニックスメタル（株）市原事業所は、市原市へ空気清浄器を寄贈。今年度は、保健福祉部 障がい者支援課に5台を寄贈しました。また、メタルリサイクル（株）は、遠赤外線暖房機、空気清浄器を2台ずつ埼玉県川島町へ寄贈。遠赤外線暖房機の寄贈はグループでも初の試みでした。

両社にはそれぞれ、市原市長、川島町長より感謝状が贈られました。機器は現在、福祉施設などで利用されています。

「契約書」「マニフェスト」の一元管理で お客様に安心のリサイクルサービスを提供

産業廃棄物の処理工程には、廃棄物の種類や処理方法などを取り決めたさまざまな書類が存在します。コンプライアンス徹底のためには、こうした書類を正しく運用することが必須。ここでは、「遵法・環境室」「マニフェスト管理システム」の紹介を通じ、書類を正しく管理するためにグループが備える仕組みについてご紹介します。

適正処理を支える仕組み

契約書の流れ

1 廃棄物の受け入れ前に契約を締結

初回の処理委託を受ける前に、各拠点と排出事業者の間で契約を交わします。現場の営業担当者が、契約書作成をサポートします。

現場と遵法・環境室が契約書作成をサポート

スズトクホールディングス株式会社
遵法・環境室　課長
谷原 宏平

排出者責任の明確化の観点からは、委託者であるお客様自身が委託契約書を作成することが理想的ですが、実際は難しいのが現実。そこで、グループは独自に契約書のひな形を用意し、お客様のご希望に応じて提供しています。

項目を埋めれば法的要件が満たせるほか、記入時には各拠点の営業担当者がサポート。遵法・環境室は顧問弁護士とも相談しながら、現場へ法律面のアドバイスを行なっています。

原本　を送付

不備が　あれば
フィー　ドバック

2 遵法・環境室が契約書をチェック

各拠点は、記入後の契約書を本社の遵法・環境室に送付。遵法・環境室は、内容に不備がないかどうかを法的な観点から確認し、不備があればフィードバックします。

3 契約書の内容を「マニフェスト管理システム」に登録

遵法・環境室は、締結した契約書の記載事項を、マニフェスト管理システムに入力。データベース化し、各拠点が閲覧できる状態にします。

契約の
内容を入力

帳簿・報告書の作成などの法的義務にも対応

スズトクホールディングス株式会社
システム室　主任
石橋 則幸

マニフェスト管理システムは、「受け入れチェック」のほかにも多彩な書類管理上の役割を担っています。

その一つが、法律で各事業者に作成と5年間の保存が義務付けられている「マニフェスト帳簿」の役割を果たすこと。マニフェスト管理システムは、そのまま帳簿代わりとなるだけでなく、情報検索機能を使うことで、行政の監査が入った際なども迅速に対応できます。

さらに、法律や条例により各自治体へ年に一度、廃棄物の報告も義務付けられています。その際は、ボタン一つで報告書が作成可能。煩雑な紙の書類の管理に起因するミスを未然に防いでいます。

マニフェスト 管理システム

マニフェストの流れ

4 廃棄物の種類・量などを契約内容と照合

各拠点は、廃棄物受け入れ時、マニフェスト管理システムの「受け入れチェック」機能を使って、廃棄物の種類などが契約内容と合っているかを確認します。受け入れ後は、マニフェストの記載事項をシステムに入力。廃棄物の受け入れ実績として保存します。

マニフェストの
内容を入力

照合

5 ダストの委託

グループで中間処理した後のダスト（残渣）は、外部業者に処理委託します。新規委託先と契約を交わす前には、必ず訪問監査を実施。法に則った処理が行なわれているかどうかを確認したうえで、契約しています。

6 最終処分の結果を契約内容と照合

最終処分が終わると、委託マニフェストの控えが処分業者から返送されてきます。その内容が廃棄物受け入れ時の契約内容と整合性が取れているかを確認し、処理は完了です。

照合

最終処分の結果までを「紐付け処理」で把握

スズトクホールディングス株式会社
遵法・環境室
木村 有里

中間処理後のダスト（残渣）はそれを処分できる業者に処理を委託します。その際に発行するマニフェストと、排出事業者から受け取ったマニフェストを紐付ける作業を「紐付け処理」と呼んでいます。

この作業をマニフェスト管理システム上で行なうことにより、最終処分の場所や方法が、受け入れ時に排出事業者と契約した方法と違っていないかどうかを確認。処理完了までの全工程を管理しています。

廃棄物処理の要となる書類「契約書」と「マニフェスト」

産業廃棄物の処理・管理方法は、廃掃法（※）によって厳密に定められています。その一つが、文書にまつわる規定。排出事業者が廃棄物を他社に委託する際は、廃棄物の種類や量などを書面で明文化し、それに基づいた処理を行なうことが義務付けられています。そのため、適正処理を実現するには、廃棄物処理に関連する各種書類を正しく運用することが欠かせません。

なかでも重要な書類は二種類。それが「契約書」と「産業廃棄物管理票（マニフェスト）」です。

契約書は、排出事業者と処理業者の双方が、一定期間の廃棄物処理を委託／請け負うことを約束する書類。廃棄物の種類から最終処分場名まで、想定される諸条件があらかじめ記載されており、期間中は常に記載事項の範囲で廃棄物処理を進めることが義務付けられています。

一方のマニフェストは、毎回の廃棄物排出時に作成が必要なもの。排出事業者は、マニフェストに廃棄物の種類や量などを明記したうえで、廃棄物と一緒に引き渡します。処理終了後、処理事業者は控えを排出事業者に返送。これにより、処理が適正に行なわれたことを、排出事業者側でチェックできる仕組みになっています。

法律管理の専門部署を設置し システム上で情報を一元管理

グループでは、法令順守を徹底するための取り組みの一環として、この二つの書類を適正に管理できる体制を整備しています。そこで大きな役割を果たしているのが「遵法・環境室」と「マニフェスト管理システム」です。

遵法・環境室は、グループのコンプライアンスを管轄する専門部署。排出事業者と各拠点が新たに契約を結ぶ際は、必ず一度、遵法・環境室が契約書の原本をチェックします。記載内容、印紙額などが法的に問題ないかを精査し、各拠点が正しい契約を交わすためのアドバイスを行なっています。

また遵法・環境室は、契約書などの情報をシステムに登録し、一元管理する役目も担っています。そのシステムが「マニフェスト管理システム」です。

これは、グループに廃棄物を持ち込む排出事業者、およびグループが処理を委託する委託先事業者との契約内容などが一覧できる独自開発のシステム。各拠点はこのシステムを使い、持ち込まれた廃棄物に添付されるマニフェストの内容と、契約内容の付け合わせを行ないます。

具体的には、「受け入れチェック」機能を立ち上げ、事業者名を入力。すると、その事業者との現在の契約内容が表示されるため、持ち込まれた廃棄物を受け入れてよいかどうかが簡単にわかる仕組みです。万一、契約期間が切れていた場合はアラートを表示。ITを活用することで、気づかずに法律違反を犯してしまうリスクを回避しています。

このようにスズトクグループでは、適正処理の要である「契約書」「マニフェスト」双方の運用をより確実にする仕組みを整備。排出事業者が安心して処理委託できる体制を実現しています。

※ 廃棄物の処理および清掃に関する法律

Way to Proper Treatment

先生役は、長男の堅太くんが参加している清水です。DVD観賞後には、子供向けにおさらいクイズを出題。遊びながら親の仕事に興味を持ってもらうとともに、その中で「環境保護はどうして重要なのか」などを考える機会を持ってもらいました。

次いで場内へ足を踏み入れた子供たちが真っ先に目を留めたのがシュレッダー、ギロチンなどの大型施設です。特に「天井クレーン」の見学では、見たこともない巨大な磁石に鉄スクラップが吊り上げられる様子に子供たちも真剣に見入っていました。

「ほかにも、おもちゃでなじみ深いフォークリフトやユンボなどを見て感激している様子でした」と村上。また、清水も「重機などが行き交う現場を怖がらないか心配でしたが、その必要はなかったですね。これほど興味を持ってくれるとは思いませんでした」と言います。

液晶テレビの解体に挑戦 磁石を使って鉄と非鉄を分別

最後のイベントは、とっておきの目玉企画。廃棄物の解体作業体験です。「実際に仕事を体験することで、親の仕事をより身近に感じてもらいたかったのです。また、自身が解体した廃棄物が再利用される、リサイクルフローの一部を実際に担うことで、誇らしい気持ちにもなれるはずです」（清水）。

この狙いは的中。廃棄された液晶テレビの解体体験は、子供たちが一番、目を輝かせた瞬間でした。親の同僚である現場担当社員の指導を受け、子供たちはドライバーでパーツを必死に取り外していきます。その様子を見て、長女・里桜さん、次女・月菜さんを招待した関原は「女の子なので興味を持ってくれないかと思いましたが、とても楽しそうで、娘の意外な一面を見た気がしました」と話します。

社員が普段使っている携帯用マグネットを手に「くっつくものが鉄、くっつかないものがアルミ」と、社員たちとまったく同じ作業をこなしていく子供たち。見慣れたテレビからネジを次々と外し、使えるものを取り出していく過程では、リサイクルできる部品の量に驚いた子も多かったようです。

社員の家族までを大切にしたい 継続的な実施に意欲

参観日を終え、子供たちは「お父さんがTVやエアコンをリサイクルしていると知ってびっくりした」「楽しかったので、中田屋で働きたい」「エコの大切さが分かった」など、さまざまな感想を持ったようです。

一方、保護者である社員も「子供に仕事を知ってもらうことで、気持ちが引き締まるのを感じた」「仕事をしてお金をもらえるという当たり前のことを身近に感じてもらえたのでは」「教えられたことをすぐ吸収する息子を見て、非常に頼もしく感じた」など、自身の仕事を振り返るとともに、子供の成長などを感じる貴重な一日となりました。

社員だけでなく、その家族までを大切にしたい――。これは、スズトクグループCEO 鈴木孝雄の想いでもあります。ほかの工場でも、社員の家族を招き、広々としたヤードでバーベキューを行なうなど、さまざまな取り組みを行なっています。「こうした取り組みを通じて、社員の家族にも会社を身近に感じてもらいたい」と子供参観日を主催した村上は継続的な実施に意欲を見せています。

ファミリー新聞　2012年3月29日（木）てんき　第22109号（6刊）

子供参観日レポート

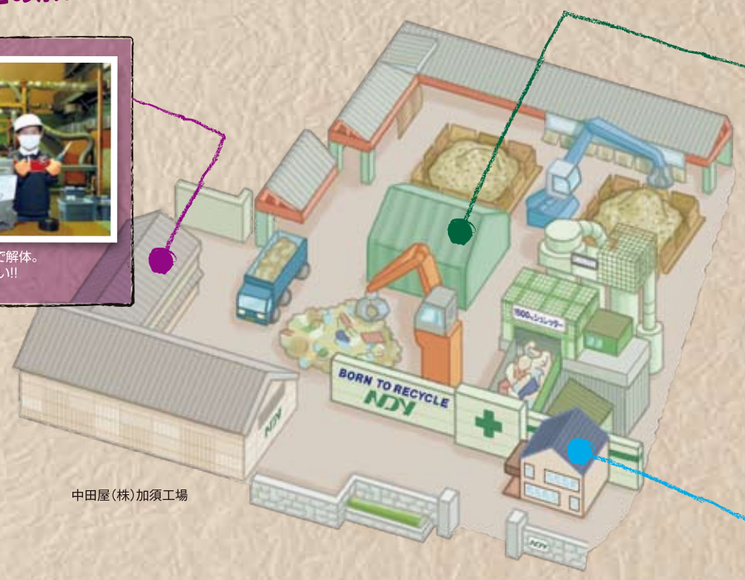
第1部 発行日 平成24年3月29日

テレビの解体・分別作業に挑戦!

「これはどう?」子供同士で互いに相談しながら、素材を仕分けていきます。

液晶テレビをドライバーで解体。お父さんの仕事って楽しい!!

部品を素材ごとに分別。テレビにはたくさんの素材が使われていることを知りました。



中田屋（株）加須工場

工場内を回り、巨大設備や手解体の様子を見学

「ドカン」と大きな音を立て、廃棄物が処理される様子にびっくり!

素材によって処理が異なるため、磁石を使って鉄かどうかをチェック!

エアコンなどの家電は手作業で解体。お父さん、お母さんの同僚とも交流しました。

リサイクルの仕組みと重要性を勉強

初めてのお父さん、お母さんの会社。リサイクルの仕組みについてDVDで勉強します。

「鉄は捨てられたあと、どうなるのかな?」との問いに意見を発表し合います。

子供用のヘルメットをかぶって場内を見学。お父さん、お母さんのヘルメットと同じ!

見学会を終えて

関原 月菜さん（小3）

家のエアコンや洗濯機もいつかこうしてリサイクルされるんだな、と感じました。いつか中田屋で働いてみたいです。

関原 里桜さん（小5）

工場は思っていたより広くて、いろいろな役割がありました。家でもできる「エコ」をしようと思います。

母親の声

ペットボトルリサイクルを率先してやっています。それに、もらった磁石を片手に自宅の家電の素材をチェック。ただ、解体はダメだと言ってあります（笑）。／関原

清水 堅太くん（小1）

お父さんが、どうしてヘルメットをかぶっているのか不思議だったけど、安全のためなんだと分かりました。

父親の声

帰宅後も工場の話でもちきり。アルミや銅という単語を聞くと「パパの会社で集めてるんだよね」と私の仕事に興味を持ってくれたようです。／清水

村上 航平くん（小1）

本物の働くクルマが見られてとても面白かったです。磁石を使うと、見た目が同じ鉄とアルミもすぐ見分けられるのが不思議だった。

村上 優衣さん（小6）

リサイクルの大切さがわかりました。お父さんが、そのリサイクルの仕事をしていることがとてもすごいと思いました。

父親の声

自分の仕事を知ってもらえてうれしい気持ちです。また、社員が子供と接する姿、子供同士が仲良くしている姿が印象的でした。／村上

※学年は2012年3月29日当時のもの

スズトクグループ・ファミリーデー 2012

中田屋 加須工場で「子供参観日」を開催 お父さん、お母さんの仕事を体験!!

社員の子供にお父さん、お母さんの会社を知ってもらう「子供参観日」を開催!
家族に仕事を理解してもらうことで絆を深め、日々、一緒に働いている同僚の家族とふれあい、
職場におけるワークライフバランスの意識を向上することなどが目的です。
参加した子供たちの保護者である社員も、その同僚たちも、子供たちの笑顔にたくさんの元気をもらいました。

二〇一二年三月二九日、中田屋(株)加須工場では、社員の子供たちが工場を訪問する「子供参観日」を開催しました。これは、日々、社員を支えている家族に感謝するファミリーデーの一環。家族に仕事を理解してもらうことで家庭でのコミュニケーションを活発にし、その絆を深めたり、社員が同僚を支えている家族を知ることで、職場におけるワークライフバランスの意識を向上することも目的です。

「父親、母親はどんな仕事をしているのか。いくら言葉で説明されても、子供たちはなかなか理解できません。一方、社員にとっても、本人や同僚の家族が職場を訪問することで、改めて家族に支えられていることを再認識する良い機会となるはずです」と話すのは、長女・優衣さん、長男・航平くんを招待した加須工場長の村上義則です。

また、次世代を担う子供たちにとって、最も身近な大人である保護者の職場を知ることは、勤労観・職業観を育むきっかけにもなります。さらに、総合リサイクル業を営むスズトクグループの工場を見学することで、リサイクルや環境保護に対する意識を醸成してほしいという想いも込めました。

当日は村上のほか、同工場の清水啓次、関原美穂の子供たち計五人が工場を訪問しました。

DVD観賞、クイズ形式で楽しみながらリサイクルを学ぶ

参観日の最初の舞台は、事務所内の会議室。加須工場の役割をきちんと理解するために親子でDVDを観賞し、資源リサイクルの仕組みを学ぶことから始めました。

今年度導入の新設備

メタルリサイクル(株)

「プレシュレッダー」入れ替え

メタルリサイクル(株)では、「プレシュレッダー」を最新のものに入れ替えました。これにより、最も効果があったのがELVを箱形にプレスしたもの(Aプレス)の処理です。従来は、シュレッダー投入前に重機でほぐしたりしていましたが、現在はAプレスもスムーズに粗破砕が可能。シュレッダーへの負担が減った上、迅速な処理が可能になりました。

(株)鈴徳 児玉営業所

「比重差選別機」導入

(株)鈴徳 児玉営業所が新たに導入したのが「比重差選別機」です。破砕後の一〇㍉未満の破砕片を"ふるい"の上に載せ、振動と風力によって金属と金属以外に分別。分別した金属からレアメタルなども回収できるようになります。二〇一三年四月に施行予定の小型家電リサイクル法を見据えての導入ですが、これにより、リサイクル効率をさらに高めることができます。

(株)鈴徳 東京営業所／船橋営業所

「放射線測定器」導入

昨今、鉄スクラップなどの放射線量に受入基準が設けられ、一定の基準を超えるスクラップはリサイクルすることが難しくなっています。そこで、(株)鈴徳東京営業所／船橋営業所では「放射線測定器」を導入。電炉メーカーなどが定めた基準を厳守しています。来社したお客様や取引先からも「目に見えない放射線にもきちんと対応しているんですね」と高評価です。

フェニックスメタル(株)市原事業所

「磁力選別機」増設

シュレッダーで破砕したスクラップは、風力でダストを飛ばし、その後、磁力によって鉄とミックスメタルなどに分類されます。しかし、風力で飛ばしたダスト内にも、まだ細かい鉄は残っています。フェニックスメタル(株)市原事業所では、そのダスト内の鉄を回収するために「磁力選別機」を活用してきましたが、さらに増設。二台体制で鉄の回収率を向上しています。

中田屋(株)千葉工場

「ギロチンシャー」入れ替え

中田屋(株)千葉工場は、ギロチンシャーを入れ替えました。これにより、効率化したのが鉄筋の直棒の処理です。以前は、横押の下に鉄筋が入り込み切断不能となり、ガスで切断する場面もありましたが、現在は安心してギロチンシャーに投入できます。また、導入時に作動油タンクを地下に移設。利用できるヤードが拡大し、より多くの品物を荷受けできるようになりました。

サニーメタル(株)大阪事業所

「新工場棟」稼働

二〇一一年、五月に竣工したサニーメタルの家電リサイクル棟が七月から稼働しました。排気ファンによる空気清浄効果など、従来のテント倉庫に比べ職場環境が改善されたのはもちろん、騒音も抑制。また、室温を一定に保ったフロンガス回収ルームを設置し、安全にフロンガスを保管しています。

リサイクル最前線の仕組み II

Focus On!!

スズトクグループの各拠点は、それぞれさまざまな設備とノウハウを持っています。ここでは、それら各拠点の特色を紹介。昨年度は、鉄スクラップや家電リサイクルに強みを持つ拠点などを紹介しましたが、今年度は使用済み自動車、古紙リサイクルに注力している二拠点を紹介します。

メタルリサイクル（株）

使用済み自動車の一括処理が可能

埼玉県比企郡に本拠を置くメタルリサイクル（株）。同社が特に注力しているのがＥＬＶ（使用済み自動車）の処理です。自動車リサイクル法が施行されたのは二〇〇五年ですが、業界に先駆けてＥＬＶ処理に取り組んだ同社は、すでに四〇年の歴史と実績を誇ります。

そもそも、ＥＬＶ処理は、自動車リサイクル法によって厳格なルールが定められています。そのため、適正処理の責任を負う自動車メーカーは、すべての処理を安心して任せられる工場を求めています。

それに対し、メタルリサイクルは、ＥＬＶ処理に求められるすべての認可を取得。自動車リサイクル法の施行に合わせてリニューアルした工場で、引き取りから破砕までをワンストップで確実に行なえます。

具体的には、車体からタイヤやバッテリー、エアバッグを取り外し、フロンガスの回収を行なう前処理の後、冷却水やパワステオイル、燃料などを回収。その後、エンジンやドアなどリユースできそうなパーツを回収するための手解体、重機による解体を経て、車体をシュレッダーによって破砕するのです。

破砕された車体は鉄・非鉄スクラップとシュレッダーダストに分別され、鉄・非鉄素材のものはリサイクルされます。このシュレッダーを所有していることも、同社がＥＬＶの一括処理を行なえる大きな強みとなっています。

（株）新生

強固なセキュリティで機密書類を安全処理

鉄スクラップはスズトクグループの中で、最大の割合を占める取扱品目です。しかし、なかには鉄の加工処理を行なっていない工場もあります。それが（株）新生です。

同社が取り扱うのは、個人情報が記載された機密書類、衣類や靴などのブランド製品、プリント基板、廃プラスチック、木くずなど。これらを細かく破砕し、古紙は圧縮成形し、製紙会社などへ出荷。その他の品目からは、廃プラスチックや金、銀、銅などの有価物を回収しています。

こうした加工処理の中核を担うのが、二〇一一年に導入した四軸式破砕機です。従来は、一軸式の破砕機を利用していましたが、破砕機を入れ替えたことで処理能力が二・五倍に向上。プリント基板処理の内製化、「バイオ燃料」の原料として販売できる木くずの中間処理が可能になりました。

また、同社はグループ内で初めて「プライバシーマーク」を取得した企業でもあります。同社に持ち込まれる書類は、金融機関や官公庁などの機密書類が中心。そのため、情報漏洩などを抑止する厳格なセキュリティ体制が求められるのです。

そこで、同社は工場出入り口のカードキー、書庫のナンバーキー、ＰＣのパスワード機能、さらにはセキュアなオペレーションと社員教育を徹底。安心して処理を任せられる環境を実現しています。

（株）新生の取扱品目の多くはこの機械で破砕されます。紙やブランド製品を処理する場合はさらにコンベアを延長し、ベーラーと連結して使用。また、排出口のスクリーン（鋼鉄製の格子）を交換することで、品目により破砕後の寸法を調整できます。

スズトクグループ環境社会報告書 2012
Sustainability Report

SIDE B 環境社会活動レポートを読む

リサイクル最前線の仕組み II
ファミリーデー2012 レポート
適正処理を支える仕組み
コミュニケーションマップ2012
VOICE OF STAFFS ～従業員の声～

「地球」と「次の世代」のために

スズトクホールディングス株式会社　株式会社 鈴徳　メタルリサイクル株式会社　中田屋株式会社
サニーメタル株式会社　フェニックスメタル株式会社　NNY株式会社　イツモ株式会社　株式会社 新生

地球環境保護のため、本冊子には植林木で作った紙と植物油インクを使用しています。